

第5・6学年 国語科学習指導案

日時 平成21年10月9日(金)5校時

児童 第5学年 男1名 女3名 計4名

第6学年 男3名 女3名 計6名

指導者 及川 公子

<第5学年>

1 単元名 人物の考え方や生き方をとらえよう

2 教材名 中核教材「わらぐつの中の神様」(光村図書)

補助教材「おばあちゃんの白もくれん」

(岩崎書店)

3 単元について

(1) 児童について

5年生はこれまでに「読むこと」に関わって、4月に「新しい友だち」を学習している。中心人物「ひろ」の心情の変化を行動や様子、会話などを手がかりに読み取る学習をした。また、7月には「千年の釘にいとむ」で書かれている事実に基づいて感想をまとめながら読む活動をしてきた。その読みの活動を生かしながら「手塚治虫」を読み進めた。さらに、「本は友達」で読書紹介をしてきた。活動を通して、児童は視点にそった読み取りをし、感想をもつことができている。

心情の変化を読み取る学習では、人物の心情の変化が何かをきっかけに変容していることは分かるが、根拠を明らかにして自分の考えを述べるのが難しい児童が多い。また、「千年の釘にいとむ」では、仕事に対する情熱を読み「手塚治虫」を重ね読みした。重ね読みをしたことで、読みの観点に沿った読み取りの力が付いてきた。その力を生かして日常の読書活動を行っている。読みの方法を学ぶ段階では、叙述に即した読みができても、自力で読む段階になると叙述を見逃して、自分の思い込みで解釈している子も少なくない。自分の力で読み進めていけるようにするために、重ね読みや比べ読みなどの経験を積んでいるところである。

(2) 教材について

この単元は、学習指導要領第5・6年の「読むこと」の内容の「エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」を受けて設定した。中学年までは、一人一人の登場人物の行動や性格に基づき、場面の展開に即して変化する気持ちを中

<第6学年>

1 単元名 宮沢賢治の表現を味わい、豊かに想像しよう

2 教材名 中核教材「やまなし」・「イノブ」の夢」

(光村図書)

補助教材「いちょうの実」 (岩崎書店)

3 単元について

(1) 児童について

6年生はこれまでに「読むこと」に関わって、4月に「カレーライス」を学習している。人物の心情の変化を叙述に即して読み、自分の考えを明らかにしてきた。また、7月には「森へ」で表現方法に着目しながら想像を広げ、観点に沿って読み取る活動をしてきた。その読み取りの活動を活かしながら「本は友達」で読書紹介をしてきた。一連の活動を通して、児童は視点にそった読み取りをし、感想をもつことができている。

今までの物語教材では重ね読みという活動を行ってきた。中核教材では読みの方法を学習し、それを基に補助教材で読み取りの力を身につけ、日常の読書活動で自立して読めるよう、段階を追って学習している。中核教材「森へ」では筆者の心情の変化や情景描写のすばらしさに書き込みをし、話し合いで他の考えを聞き合い、考えを深めたり広げたりしている。その読み方を生かして同一作者の補助教材「ザトウクジラを追って」を読み、その力を読書活動へとつなげている。読みの方法を学ぶ段階では、叙述に即して読めていても、補助教材で勝手な解釈をして読むことがある。根拠になるのは、文章であることを意識させ正確な読みの指導をしているところである。

(2) 教材について

この単元は、学習指導要領第5・6年の「読むこと」の内容の「エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」を受けて設定した単元である。5年生までの学習で身につけたことを想起し、文章表現、文芸作品の多様性、

心にとらえてきた。このことを受けて、暗示的な表現の工夫にも着目しながら、想像を豊かにして読むことが大切になる単元である。

本単元は、「わらぐつの中の神様」と「おばあちゃんの白もくれん」の同一作者の2つの教材を扱うこととした。中核教材「わらぐつの中の神様」は登場人物の人柄や、考え方を行動描写や会話から読み取ることができる。また、人物の心が変容し、他者との心と通い合う様が描かれている。これとよく似た作品が補助教材の「おばあちゃんの白もくれん」である。人物の考え方や生き方をとらえるという観点で「わらぐつの中の神様」と重ね読みをする。2つの作品は、登場人物の考え方や生き方を読み取るのに適した教材であると考ええる。

(3) 指導にあたって

この単元の言語活動の柱は読書発表会である。ここでは、会話や行動描写から人物の考え方を読み取ることができるように同一作者の補助教材を重ね読みする活動を取り入れた。ひろげる段階では、杉みき子の作品を読み、感想を交流する時間をとる。

中核教材では「わらぐつの中の神様」ではおばあちゃんやマサエ、おみつさんや大工さんの考え方や生き方をとらえる活動を入れる。自分の考えをもつために、会話や行動の文章に書き込みをさせ、そこからイメージできることを想像させる。擬態語や比喩表現にも触れ、様子が頭の中に浮かぶようにさせたい。単位時間の交流場面では、話し合う視点を明らかにし、考えの交流を図りたい。複式学級であるため、リーダーを中心とした話し合いのもち方や、ワークシート、既習の紙板書などを手がかりにするなどの手立てを図りたい。

学習活動の中では、考えの形成場面でのつまずきが予想される。文章に何を書き込んだらよいか分からない子のためにも二次の導入で書き込み指導を丁寧に行う。題名や1つの文から想像できることをみんなで考え、その後自分達の力で書き込みをさせたい。話し合いの中でも、聞くことで考えに広がりがあることを実感させ聞く大切さを理解させたい。話し合いの手引も用意し参考にさせながら、自分の言葉で話せるようにさせたい。

単元を通し、行動の文や会話に着目させながら登場人物の生き方や考え方を読み取れるようにさせたい。また、物語の主題や表現の工夫を知ること、読書のおもしろさを味わい、いろいろな本を読みたいという気持ちを育てたい。

かさに触れるのも6年のこの時期には重要なことである。

本単元は、資料としてある宮沢賢治の伝記「イーハトーブの夢」と、宮沢賢治の物語「やまなし」「いちょうの実」を扱うこととした。「イーハトーブの夢」は、宮沢賢治の評伝である。賢治の生き方に触れることができ、それが作品へどのように表れているかを考えることもできる。中核教材「やまなし」は比喩表現やオノマトペなど、独特な表現が多い作品である。一つの言葉、連なった言葉たちがもつ響きやリズム、イメージを大切に読み味わわせたい。情景描写をイメージする視点で補助教材「いちょうの実」を重ね読みする。2つの作品は賢治の表現技法の特徴をとらえ、情景を想像するのに適した教材であると考ええる。

(3) 指導にあたって

この単元の言語活動の柱は読書発表会である。ここでは、宮沢賢治の表現のすばらしさに自分で気付いていけるようにするために、同一作者の補助教材を重ね読みする活動を取り入れた。ひろげる段階では、宮沢賢治の作品を読み、感想を交流する時間をとる。

表現の豊かさを引き出しているのは賢治の生い立ちや考え方に裏付けされるものもあるので、単元を見通す段階で「イーハトーブの夢」を学習する。ふかめる段階の個の考えの形成にあたっては、文章を深く読むために教材文に書き込みをさせる。言葉や文からイメージできることを自分の言葉で書き込みをさせ、想像を豊かにさせたい。一時間の読みだけでは深まらない考えもあるので家庭学習や朝自習などでも読ませ、気がついたことは随時書きこませたい。単位時間の交流場面では話し合う視点を明らかにする。複式学級でもあるので、リーダーを中心とした話し合いの持ち方や、ワークシート、既習の紙板書などを手がかりに活動するなどの手立てを図りたい。

学習活動の中で、交流場面でのつまずきが予想される。そこでは、自分の言葉で自信をもって発言できないことなどが考えられる。書いたものを読むではなく、理解したことを自分の言葉で話せるように、ふかめる段階の交流場面で指導していきたい。

単元を通し、宮沢賢治ならではの効果的な表現に着目して作品を読み、そこから読書のおもしろさを味わい、様々な本を読みたいという気持ちを育てたい。

4 単元の目標と仮説との関わり

(1) 目標

学習した技能を用いてそれぞれの場面の形象や、同一作者の作品を読もうとしている。[関心・意欲・態度]
登場人物の人柄や生き方、考え方、場面の情景を、叙述に即して読むことができる。 [読むこと エ]
語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。
[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(カ)]

(2) 研究仮説との関わり

手立て1との関わり

<考える力>

- ・教材文の行動描写や会話にサイドラインを引き、書き込みをしたり、心情曲線で表したりすることにより、叙述に即した読み取りをさせれば、登場人物の考え方や心情の変化を読み取ることができるであろう。

[能力系統表 9・12]

<交流する力> 本時との関わり

- ・話し合いのモデルや、司会者の進め方を参考にしたり、友達の考えを比べながら聞いたり伝えたりすることで、考えを深めたり広げたりすることができるであろう。

[能力系統表 30]

手立て2との関わり

交流を重視した言語活動との関連

- ・同一作者の作品の特徴や共通点を考え交流する読書発表会という言語活動を通して、自分の思いや考えを広げながら伝え合い、高め合う力が育つであろう。

4 単元の目標と仮説との関わり

(1) 目標

情景や独特の表現に興味をもち、宮沢賢治の作品や生き方を知ろうとしている。 [関心・意欲・態度]
描かれた情景を、叙述に即して想像しながら読むことができる。 [読むこと エ]
比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。
[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ケ)]

(2) 研究仮説との関わり

手立て1との関わり

<考える力>

- ・教材文の擬態語や比喩、表現方法にサイドラインを引いたり書き込みをしたりすることにより、叙述に即した読み取りをすれば、描かれた情景を想像して読むことができるであろう。 [能力系統表 13・20]

<交流する力> 本時との関わり

- ・話し合いのモデルや、司会者の進め方を参考にしたり、友達の考えを比べながら聞いたり伝えたりすることで、考えを深めたり広げたりすることができるであろう。

[能力系統表 30]

手立て2との関わり

交流を重視した言語活動との関連

- ・同一作者の作品の特徴や共通点を考え交流し、読書発表会という言語活動を通して、自分の思いや考えを広げながら伝え合い、高め合う力が育つであろう。

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度		読む能力		言語についての知識・理解・技能	
5年生	6年生	5年生	6年生	5年生	6年生
・人物の考え方や生き方に興味をもち、杉みき子の作品を読もうとしている。	・情景や独特の表現に興味をもち宮沢賢治の生き方を知ろうとしている。	・登場人物の人柄や生き方、考え方、場面の情景を、叙述に即して読みとっている。	・描かれた情景を、叙述に即して想像しながら読みとっている。	・方言と共通語の違いを理解している。	・比喩的な表現を手がかりにして、情景を想像している。

6 単元指導計画と評価計画

第5学年			第6学年		
具体的評価規準 ・支援を要する児童への 手立て	本時の目標	時 階	時	本時の目標	具体的評価規準 ・支援を要する児童への 手立て
<p>心に残る言葉や文章、情景や場面に興味を持ち、進んで学習をしようとしている。(ノート)</p> <p>・登場人物の会話や行動などに着目させる</p>	<p>・単元を通して人物の生き方や考え方、人との関わり合いをとらえることに気付き、学習の見通しをもつことができる。</p>	1	みとおす	<p>・「宮沢賢治」について知り、単元を通して賢治の表現の特徴や考え方をとらえることに気付き、学習の見通しをもつことができる。</p>	<p>教材文の情景や言葉の使い方に興味をもち宮沢賢治の作品を知ろうとしている。(ノート)</p> <p>・既習の作者との違いなどから気付かせる。</p>
	<p>・「わらぐつの中の神様」を読み、感想をもち、学習課題をつくることができる。</p>	2		<p>・資料「イーハトーブの夢」を読み、作者の考え方にふれ、学習課題をつくることができる。</p>	
<p>登場人物の人柄や場面の様子、情景を叙述に即して想像し味わいながら読もうとしている。(ワークシート)</p> <p>・友達の発言をもとに、人物の人柄や様子を感じ取らせる。</p>	<p>・おみつさんの雪げたに対する思いやわらぐつ作りをするおみつさんの様子から、考え方や生き方をとらえることができる。</p>	3	ふかめる	<p>・やまなしの「五月」の谷川の様子を、情景を想像しながら読むことができる。</p>	<p>場面ごとに出来事や描写を読み取りながら、比喩表現など優れた言葉の使い方を味わい、「5月」と「12月」のイメージを対比して考えている。(ワークシート)</p> <p>・サイドラインや書き込みをすることでイメージを膨らませる。</p>
	<p>・大工さんの仕事に対する姿勢から考え方や生き方をとらえることができる。</p>	4		<p>・「十二月」の谷川の様子を、情景を想像しながら「五月」と比べて読むことができる。</p>	
	<p>・マサエの心情の変化に気づき、作品の構成の効果について話し合うことができる。</p>	5		<p>・「イーハトーブの夢」にある賢治の考えが「やまなし」でどのように表現されていたか話し合うことができる。</p>	
<p>「わらぐつの中の神様」で学習したことをもとに自分の力で補助教材や杉みき子の作品を読もうとしている。(ワークシート・発表)</p> <p>・ノートやワークシートを振り返らせ、会話や行動に着目させる。</p>	<p>・「おばあちゃんの白もくれん」を読み、登場人物の考え方や生き方をとらえることができる。</p>	6	ひろげる (8本時)	<p>・情景描写や表現の特徴に気をつけながら「いちょうの実」を読むことができる。</p>	<p>「やまなし」で学習したことを生かして自分の力で補助教材や宮沢賢治の作品を読もうとしている。(ワークシート・発表)</p> <p>・ノートやワークシートを振り返らせ、情景がイメージできるところや、独特な表現にサイドラインを引かせる。</p>
	<p>・「おばあちゃんの白もくれん」の人物の考え方や生き方について話し合い、「わらぐつの中の神様」と比べて読むことができる。</p>	7		<p>・「いちょうの実」で賢治の表現の特徴はどこか話し合い、「やまなし」と比べて読むことができる。</p>	
	<p>・「わらぐつの中の神様」や「おばあちゃんの白もくれん」から、人物の考え方や生き方を話し合い考えを広げたり深めたりすることができる。</p>	8		<p>・「やまなし」や「いちょうの実」には賢治の表現の特徴がどのように表れているか話し合い考えを広げたり深めたりすることができる。</p>	
	<p>・個人で、杉みき子の作品を登場人物の考え方や生き方に着目しながら読むことができる。</p>	9		<p>・個人で、宮沢賢治の作品を表現の特徴に着目しながら読むことができる。</p>	
	<p>・個人で読み取った人物の考えを全体で交流することができる。</p>	10	10	<p>・個人で読み取った表現の特徴を全体で交流することができる。</p>	

7 本時の指導

(1) 目標

・「わらぐつの中の神様」や「おばあちゃんの白もくれん」から、人物の考え方や生き方を話し合い、考えを広げたり深めたりすることができる。

(2) 展開

は直接指導、 は間接指導。

7 本時の指導

(1) 目標

・「やまなし」や「いちょうの実」には賢治の表現の特徴がどのように表れているか話し合い考えを広げたり深めたりすることができる。

段階	第5学年			第6学年			段階	
	評価準備物	・期待する反応 教師の支援	・学習活動 主発問	形態	・学習活動 主発問	・期待する反応 教師の支援		評価準備物
つかむ(5分)	・紙板書 ・ワークシート		・2つの作品を読む良さを考える。 ・前時までの学習を想起する。		・2つの作品を読む良さを考える。 ・課題確認する。 2つの作品について、賢治の表現の特徴がどのように表れているか話し合い、考えを広げたり深めたりしよう。		つかむ(5分)	
			2つの作品に登場する人物の考え方や生き方について話し合い考えを広げたり深めたりしよう。		・前時までの学習を想起する。	・紙板書 ・ワークシート		
ふかめる(35分)	具体的評価規準 ・おばあちゃんやめぐみの考え方を叙述に即して読み話し合いをしている。(ワークシート) 支援を要する児童への手立て ・自分で考えつかなくても、友達の発言から分かったことを発表させる。	・登場人物 ・子供の考え方が終わりに変化しているところ。 ・おばあちゃんと子供の考えが終わりには同じようになっているところ。 ・心の通い合いがあるところ。 柱1の話し合いで深まったところや広がった考えを書かせておく。	・学習リーダーを中心に話し合う。 2つの作品で似ている人物の考えかたはどこでしたか。 柱1 ・2つの作品の人物の考えで似ているところは何が話し合う。		2つの作品で似ている表現の特徴はどこでしたか。 柱1 ・2つの作品の表現の特徴について話し合う。	・オノマトペを使って想像させている。 ・比喩を使っている。 ・色をイメージさせる言葉がたくさんある。 柱1の話し合いで深まったところや広がった考えを書かせておく。	具体的評価規準 ・「やまなし」「いちょうの実」で表現の特徴を読み取り、結びつけながら自分なりの感想をもち話し合いをしている。(発言) 支援を要する児童への手立て ・自分で考えつかなくとも、友達の発言から分かったことを発表させる。	ふかめる(35分)

	<p>・紙版書 具体の評価規準</p> <p>・自分の考えに照らし合わせて人物の考え方や生き方を読み取っている。 (発言・ワークシート)</p>	<p>今の自分や世の中の人と比べてみて、なぜその人物に関心を持ったのか考えさせる。</p> <p>・私はおみつさんに関心を持ちました。理由は、欲しい物を買うために自分で努力をしたからです。今の自分では何かを作って売りお金を作りだすことはできないと思います。</p>	<p>柱2</p> <p>・2つの作品で考え方を学んだ人物はだれか。それはなぜか。</p>		<p>・学習リーダーが中心となって話し合う。</p> <p>柱2</p> <p>2つの作品でイメージが豊かに広がったのはどこか。どのように広がったのか話し合う。</p>	<p>・お日様は燃える宝石のようにのところがイメージが広がりました。宝石はきらきら輝いているけれど、それが燃えるようになるので、ゆらゆらと明るく輝いている様子が浮かびました。</p>	<p>・紙版書 具体の評価規準</p> <p>・自分の考えに照らし合わせて表現の技法を読み取っている。 (ワークシート)</p>	
			<p>・登場人物の考え方で学んだことを書く。</p>		<p>・豊かなイメージを膨らませる表現の特徴について確認する。</p>			
<p>まとめる(5分)</p>	<p>・ワークシート</p> <p>・自分には考えつかなかったことも話し合うことで分るようになりました。</p>	<p>・自分には考えつかなかったことも話し合うことで分るようになりました。</p>	<p>・まとめる 今日の話し合いで深まったり広がったりした考えは何でしたか。</p> <p>・感想を話す。</p> <p>・2つの作品を比べて読むと表現の特徴や人物の考え方がより明確になる良さを確認する。</p>		<p>・分かったことや深まった考えを書く。</p> <p>・まとめる 今日の話し合いで深まったり広がったりした考えは何でしたか。</p> <p>・感想を話す。</p> <p>・2つの作品を比べて読むと表現の特徴や人物の考え方がより明確になる良さを確認する。</p>	<p>・～さんが賢治の表現について発言したところから、自分の考えが広がりました。</p>	<p>・ワークシート</p>	<p>まとめる(5分)</p>

単元十時間目

五年生

課題 二つの作品に登場する人物の考え方や生き方について話し合い、考えを広げたり深めたりしよう。

話し合いの柱

二つの作品の人物の考えで似ているところは何か。

二つの作品で強く関心を持った人はだれか。

それはなぜか。

六年生

課題 二つの作品について、賢治の表現の特徴がどのように表れているか話し合い、考えを広げたり深めたりしよう。

話し合いの柱

二つの作品にある表現の特徴について

二つの作品でイメージが豊かに広がったのはどこか。
どのように広がったのか。

作品を読み比べてみると、良さに気付いたり、考えをより確かに持ったりすることができる。